

すらすらいえるよ

ぼくは、いま、九九のべんきょうをしています。六のだんがやっといえるようになりました。でも、「ろくしち」「ろくは」になると、つまってしまふことがあります。

きょう、七のだんの九九をべんきょうしました。

「しちろく」「しちし」になると、こたえがわからなくなってしまうました。

「きょうは、七のだんの九九をおぼえることがしゅくだいです。あした、いってもらうよ。きかせてね。」

先生がいました。でも、ぼくは、下をむいてしまいました。

ぼくは、いえへかえるながいさかみちを上るあいだ、ずっと七のだんの九九をいいました。

いえにかえっても、七のだんの九九をなんかいも、なんかいもくりかえしていいました。

「しちいちが七、しちに十四、しちさん二十一、しちし……。すぐにこたえがいえません。」

「すらすらいえるまでがんばらないといけないね。」
おかあさんがはげましてくれました。

見たいテレビのじかんになりましたが、「しちご」ぐらいになるとすぐにこたえがいえません。おふろでおうさんに七のだんの九九をきいてもらいました。

「しちいちが七、しちに十四、しちさん二十一、しちし二十四……あつ、またまちがえた。」

「七のだんはまちがえやすいから、ゆっくりいってみよう。」
おとうさんがいいました。



「しちいちが七、しちに十四、しちさん二十一、しちし二十四、しちご三十五、しちろく：：。」
ゆっくりいっても、なんかいもと中でつまってしまいます。だんだんあたまがぼうつとしてきました。

すると、

「七のだんの九九は、かけるかすが一ふえたら、こたえは七つふえるんだよ。」

おとうさんがヒントをくれました。

「そうだった。じゅぎょうで先生もいっていた。よし、もう一かい。しちいちが七、しちに十四、しちさん二十一、しちし二十八、しちご三十五、しちろく四十二：：しちく六十三、いえたあ。」

「ようし、さいごまでいえたね。もう一かいまちがえずにすらすらいえるかな。」
おとうさんがいいました。

「うん。もういえるよ。しちいちが七、しちに十四、しちさん二十一、しちし二十四、しちご三十五、しちろく四十二：：しちく六十三。」
なんかいもつづけたので、やっどすらすらということができるようになりました。

おとうさんを見ると、とてもにこにこしています。

ぼくは、あした学校にいったら、一ばんに先生に七のだんの九九をきいてもらおうとおもいます。

